

## 仙台教区 復興支援活動ニュースレター

# 4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗  
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12  
カトリック仙台司教区事務局  
TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378  
義援金振替口座：02260-9-2305  
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

発刊のことば

仙台教区サポートセンター センター長補佐 小松 史朗神父

「新しい創造」計画は、まずは個人で祈るところから始まり、現在では日本の教会としての復興支援活動へと発展した。信徒も修道者も司祭も、こどもから年寄りまで、一人ひとりのあつき尊い思いが結集し、被災した方々へと向けられた。日本の教会始まって以来の大きな活動へと成長し、なおも続けられている。震災から2年と2か月がたった。他の活動団体が活動の撤退を始めた今だからこそ、仙台教区内の小教区の活動は、被災した地域にとって、無くてはならないものに成るに違いない。そして…。小教区の活動が被災地にとって大切になる今だからこそ、小教区の活動を中心としたニュースレターを別に発刊することを決めた。

一つでも多くの小教区がその活動によって地域の中で証しする教会になることを夢見つつ！

## 「主役は、仮設の人々」

カトリック郡山教会 鍵谷和子

3ヶ月ごとに開かれる福島ブロック会議は、今回の3月18日で第6回目を数えました。第5回「福島ブロック会議」の会場が、郡山教会だったことをきっかけに、主任司祭である梅津明生神父様からの勧めで、前回、初めて「ブロック会議」に参加しました。

他の教会の方々がどんな活動をなさっているのか、ほとんど知りませんでしたので、発表を聞きながらその活躍に驚きながらも、大変参考になりました。

ブロック会議に出席する前は、私たちは無原罪聖母宣教女会の賛助会員として、グループで郡山市内の富岡町仮設を、懇親会、クリスマス会と年2回訪問しているだけでした。

ご承知のように、富岡町仮設住宅は、福島県双葉郡富岡町から避難してきている人々が住んでいる仮設住宅です。どこの仮設住宅もそうですが、ここの仮設も年ごとに仮設側の需要が変わってきています。さらに、仮設ごとに独自の集会のプログラムが組まれており、外部からボランティアとして入りたくても、それを望んでいるボランティアグループは順番待ちの状況です。

そんな中であって、私たちは神父様に尋ねました。「状況の違う私たちが、富岡の仮設を訪ねて何を話せばいいのかわかりません。どうすればいいのでしょうか」と。すると神父様は、「何も話さなくていいんだよね。続けているのが大事なんだよね」とおっしゃいました。



そのアドバイスを受け、「主役は、あくまでも、富岡仮設の人々」だということ。日にちを決めてこちらが出かけて行く事（これも喜ばれますが）よりも、「継続して友達になっていくことこそ、カトリックのボランティアかな？」と考えました。そこで、すでにある仮設のプログラムに私たちの方が参加させていただく関わり方をしようと決めました。例えば、毎週の元氣

体操、編み物グループ、絵手紙教室、などなど…

こうして、ボランティアの関わり方を変え、仮設側の了解を得て、個人として参加していくあり方を始めました。黙って富岡の人たちの空気の中に居ること。どんなに僅かな事柄にも私たちがリードを取る言動はしません。小さな者として、毎週そこに居させていただくボランティアを続けています。3時間程度ですが、一緒に編み物をしていくうちに、自然にハンドクリームを持参して、お年寄りの手をマッサージするようになりました。互いの手を重ねていくうちに、ご自分たちの家族の事などを少しずつ話してくださるようになりました。

私たちの活動はまだ日も浅く、友達付き合いはこれからだと思います。そして、仮設訪問の限界もあります。個人的に買い物の手伝いをすることや各家庭をお訪ねすることは、禁止されています。宗教的会話・行動もタブーです。

この仮設には、原発事故で故郷を追われた方々が暮らしています。最近のデータでは、戻るつもりがあると答えた方は、一割ほどだそうです。仮設暮らしの終わりが今のところ見えないために、不安を抱えておられます。

そうこうしているうちに、市内の離れた場所に富岡役場ができました。横にある公民館には、「富岡の人々と一緒に話してみませんか？」というチラシが出されていました。こうした場が実現するのなら、話し合いを通して私たちが郡山市民として、これからの富岡の人々を温かく迎え入れる準備ができるのかな、と考えています。長い道のりですが……。

教会の他の信者さんにも、ボランティアの事をもっと知ってほしいと考えています。こちら、これからの課題です。

## 福島の“桃源郷、に包まれて

松木町教会「愛の支援グループ」 鈴木キミ子

来る日もくる日も「今日、何すっかなー」。原発事故により浪江町は、「帰還困難区域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」の3区域に分断されている。当分、ふる里には帰れそうにもない。一時帰宅でわが家を片付けるつもりだったのが、あまりの酷さに何もできないまま仮設に戻ってきたという。

近頃健康のためにウォーキングしている宮代仮設の方々を見かけるようになり、笑顔もある。しかし、夜になると眠れないという。先の見えない状況の中での、仮設住宅暮らしが長すぎるからだろう。そのような中で、1年7カ月、私たちが一緒に歩いてきた宮代仮設の方々は、カリタスのイベントを楽しみにしてくださる。



4月12日(金)、待ちに待った花見会。昨年も福島の「桃源郷、と言われる花見山公園に行ったが、震災による花木養生のため、公園には入れず、山全景を麓から眺めただけだった。それでも十分きれいで楽しめた。

今年は、「頂上までのコース」と、歩行が思う様でない方のために、昨年と同じコースの「お楽しみコース」の2コースに分かれた。

ご多忙のところ、幸田司教様もおいで下さり、近隣の小教区からもボランティアさんの笑顔の応援参加があり、宮代仮設の方々とボランティアさんで66名だった。

天候にも恵まれて、頂上からは吾妻連峰と福島市内が一望でき、宮代仮設の方々も東京方面からのボランティアさんも満開の桜と数種の花木が織りなす花見山を満喫できたと思う。

花見山近くの集会所で、昼食と花より団子と歌で交流した。全員で合唱した「さくら」はしっかりと。「いつでも夢を」は、青春時代に戻ったかのような混声合唱団ですばらしいハーモニーだった。

花見の際、浪江町・宮代仮設の方々は、NHK「おはよう日本」全国放映としての「復興の桜」のインタビューを受けていた。どんな思いで話していたのだろうか。原発事故による苦しい避難生活の中で、桜からパワーを頂けたことが発信できたのではないだろうか。担当ディレクター(現、本局)が、3・11後、1年間福島勤務だったことから「復興の桜」で、福島を全国に発信したかったと言っていた。感謝!

東京教会管区、CTVCの皆様、地元の皆様のご支援と応援に、いつも感謝している。一人ひとりの笑顔は寄り添うという支えになっている。桜と笑顔の満開の一日。 神に感謝。

## 「亘理町仮設の皆さんと2度目の花見」

八木山オリーブの会 野田和雄

4月17日(水)、八木山オリーブの会は、昨年に引き続き、亘理町仮設「旧館」の皆さんと2度目の花見を行いました。「今年の花見はどこがいいのかな?」と仮設の人に聞くと、「三神峯公園(みかみねこうえん)の桜を見たい」とのこと。「三神峯公園は私たちの地元だし、動物園にも



行ったら面白いね。動物園の後、中間にある八木山教会に寄ってもらって、私たちも一緒にバスに乗って公園までいこう」と自然に決まりました。

昨年は、八木山教会のスタッフが、お迎えから仮設へのお送り、そして準備から後片付けまで、全て行いました。今年は、八木山教会スタッフは地元から動かないで、教会と動物園、三神峯公園担当に分かれて責任をもち、亘理教会の方に、仮設の方のお迎えとバスの送迎をお願いしました。

昨年の花見と違うことは、仮設の皆さんと仲良くなっていたこと、亘理教会や白石教会との連携も出来たことです。そして、今回

は相互理解を深めるためにも、「聖堂に入ってもらおう」と考えました。仮設の方々が、初めて教会の聖堂に入ってどんな印象を受けるのだろうかと思像して、みんなの心はワクワクしました。

そんな企画の相談をしているとき、千葉県の上井教会から資金応援と仮設訪問の参加応援の話がありました。また東京の田園調布教会から「今年も応援しますよ」と連絡があり、このような多くの応援に支えられて勇気が出ました。

当日の亘理町仮設では、予定時間前に全員が集まり、バスは朝8時半の定刻前に出発することが出来ました。このことから、皆さん本当に楽しみにしていたことがわかりました。一方、同じ頃、八木山教会では動物園担当者たちが心を込めて、出発前のお祈りをささげていました。

10時にバスが動物園に到着すると、顔見知りがたくさんいます。思わずみんなで手を振りました。案内用の小旗を用意し、モデルコースを先導しました。仮設の方のなかには、「孫が大きくなったから、動物園には来たくても来られなかったので、うれしい」という人や、「動物園に来るのは久しぶり」や「昔と変わった」と言いながら、象やライオン、人気者のサルの前で笑顔が絶えませんでした。

歩き疲れたところで、八木山教会に入って記念撮影をし、名札を付けました。名札の色はゲストはピンク、スタッフは緑色です。これは、花見で楽しく話しながら名前を覚えるために作りました。聖堂に入った仮設の方々の感想は、「教会のイメージが変わった」「明るくて親しめる」と好評でした。「クリスマスに招待したら来てくれるかもしれない」と、期待がもてました。

12時半、三神峯公園に到着。八木山教会からバスで10分という距離です。天候に恵まれ、三神峯公園の桜は見事でした。朝早くから公園で場所取りをするのも、三神峯公園担当者の重要な役割でした。総勢67名が、シートやテーブルに座ると桜の香りがいっぱいに広がります。お酒もお弁当も美味しいし、楽しい会話が弾みます。桜の下で緑とピンクの名札が入り乱れて歌を歌い、のどを潤して親睦を深めました。半分以上の方が、三神峯公園の桜は初めてでした。

また花見が出来るといいなと思いながらお別れし、最後にいつも八木山教会が、亘理の仮設訪問の際にご指導くださる小野寺洋一神父様のリードで全員がこの集いの振り返りをし、1日の恵みを感謝しました。

## 「4→6・45通信」名称について

本紙の「4→6・45通信」という名称は、小松史朗神父によって命名されました。

東日本大震災直後の2011年4月18日、仙台教区の平賀徹夫司教は、仙台教区の復興に向かって、「新しい創造」基本計画を発表しました。以来、仙台教区のみならず、日本中のカトリック教会は、この基本計画に共鳴して、復興活動をしてくださっています。この基本計画には、以下の2本の柱があります。

1. 「仙台教区サポートセンター」の活動を主たる活動と位置づけて、全教区を挙げてこれを推進する。
2. 「仙台教区<4→6・45>計画を推進する。

この柱2が、今回のニュースレターのタイトルに選ばれたものです。

「国道4号線沿い、および内陸部の諸教会が、国道6号線、および45号線沿いにおいて甚大な被害を受けた地域の諸教会との交流・支援を深め、被災地で被災した人々を支援する」と、基本計画はのべています。

「新しい創造」基本計画を心に留め、もう一度、地図で、国道4号線、6号線、45号線を確認し、その場からあなたの位置を振り返っていただければと思います。

# ボランティアを募集しています！ 『日帰り』でもボランティア活動可能です！

各ベースでは、ボランティアを募集しております。お近くにお住まいの方は、『日帰り』でも活動可能です。各ベースのお申込先やお問い合わせ先は、以下のようになっております。皆さまのご参加、お待ちしております。

## 《宮城県》

◆カリタス石巻ベース 〒986-0875 宮城県石巻市末広町3-14

◆カリタス米川ベース 〒987-0901 宮城県登米市東和町米川字町裏84 一区集会所

◎上記、2ベースのお問い合わせ・お申込先は、「仙台教区サポートセンター」です。

・メールアドレス:sdscvol@gmail.com ・電話:022-797-6643/090-1217-3233

・FAX:022-797-6648

## 《岩手県》

◆カリタス釜石 〒026-0022 岩手県釜石市大只越町2-4-4カトリック釜石教会

◎お問い合わせ先・お申込先は、「カリタス釜石」です。

・メールアドレス:kamaishi.vol@gmail.com ・電話/FAX:0193-27-9030

◆カリタス大船渡ベース「地ノ森いこいの家」

〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町字地ノ森43-2

◎お問い合わせ先・お申込先は、「カリタス大船渡ベース」です。

・メールアドレス:ofunatobase@gmail.com ・電話/FAX:0192-47-4737

◆カリタス大槌ベース

〒028-1117 岩手県上閉伊郡大槌町末広町1-4 ビジネスホテル寿

◎お問い合わせ先・お申込先は、「カリタス大槌ベース」です。

・電話:0193-55-5885 ・FAX:0193-55-5886

◆札幌カリタス宮古ベース 〒027-0052 岩手県宮古市宮町1-2-14

◎お問い合わせ先・お申込先は、「札幌教区サポートセンター」です。

・メールアドレス:officecsd@csd.or.jp ・電話:011-241-2785 ・FAX:011-221-3668

## 《福島県》

◆CTVC カリタス原町ベース 〒975-0039 福島県南相馬市原町区青葉町2-35

◎お問い合わせ先・お申込先は、「カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)」です。

・メールアドレス:ctvc@tokyo.catholic.jp ・電話:090-3522-3209 ・FAX:03-5414-0991

◆いわきサポートステーション「もみの木」

〒970-8047 福島県いわき市中央台高久2-11-2

◎お問い合わせ先・お申込先は、「さいたま教区サポートセンター」です。

・電話:090-9972-4946